

－首都高速道路株式会社－

東品川棧橋・鮫洲埋立部更新事業の進捗状況

1. はじめに

東品川棧橋・鮫洲埋立部更新事業は、開通以来50年以上にわたる過酷な使用や、海水による激しい腐食環境から重大な損傷が多数発生していた1.9km区間の道路構造物を、長期的な安全を確保するために、長期耐久性と維持管理性に優れた構造に造り替えるものである。



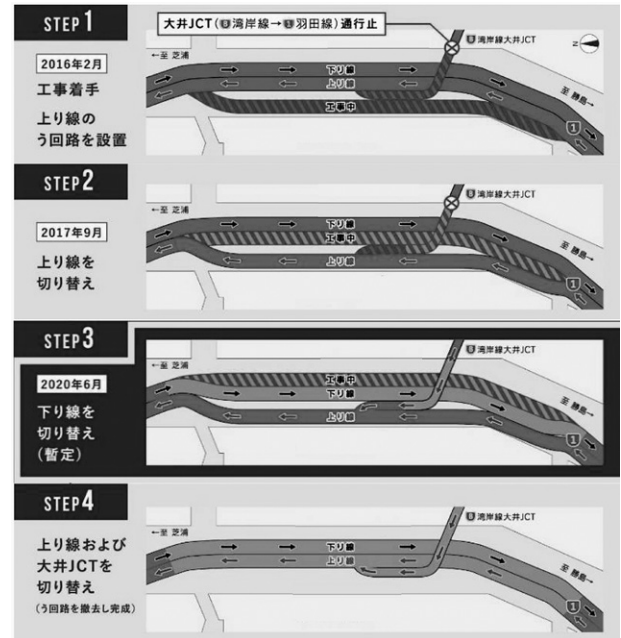
羽田線更新区間

2. 事業概要

更新区間は鮫洲埋立部の約0.6kmと東品川棧橋部の約1.3kmからなり、鮫洲埋立部は、鋼矢板を用いた埋立構造から中空プレキャストボックス構造に、東品川棧橋部は、海水面から一定程度離れた高架構造に更新する計画である。

施工中においては、首都高速1号羽田線の交通量約7万台/日の交通機能を確保するため、長期の通行止めはせずう回路を設置し、交通を切り替えながら本線を半断面ずつ造り替える計画としている。2017年9月に上り線をう回路へ切り替え、2020年6月に下り線を新たに造り替えた将来の更新上り線に暫定運用として切り替えたところである。これにより当初予定していた東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会前に、損傷した既設構造物を使用せず新設構造物での交通運用を可能とした。

現在は将来の更新下り線の施工に入っており、鮫洲埋立部では中空プレキャストボックスを設置するための地盤改良工を、東品川棧橋部では既設構造物を撤去し、撤去した箇所から随時、新設橋脚工を実施している。これらの施工は東京モノレールと先行



施工ステップ



既設構造物撤去及び新設橋脚工の施工状況

して造り替えた更新上り線で挟まれた狭隘な空間での作業となるため、工夫を凝らしながら工事を進めている。

今後は、更新下り線を完成させた後、現在暫定として運用している下り線を更新下り線に、またう回路を更新上り線へ切り替え、それに伴い大井JCTの付替えを行う予定であり、完成に向けて工事を鋭意進めていく。

首都高速道路株式会社 更新・建設局 事業管理課
吉尾 泰輝